

EIA補遺版第2章 - 油流出対応
付録1 - 図
(章の本文に付随)

内容

項目	タイトル
図 2. 1	海面に 97m ³ のヴィーチャズ油が流出した場合の平均油膜範囲の変化 (km ²) (出典: REA 2004)
図 2. 2	ピルトン- A プラットフォーム (モリクパック) からの油流出における拡散範囲 (リスクゾーン) : 秋 (シナリオ: 流出量 96m ³ 、原因はパイプライン破裂, REA 2004)
図 2. 3	ピルトン- A プラットフォーム (モリクパック) からの油流出により被害が想定される海岸線 : 秋 (シナリオ: 流出量 96m ³ 、原因はパイプライン破裂, REA 2004)
図 2. 4	ピルトン-A プラットフォーム (モリクパック) からの海岸線被害の可能性 : 秋 (シナリオ: 流出量 96m ³ 、原因はパイプライン破裂, REA 2004)
図 2. 5	無氷期間中における LUN-A での事故の際に海岸に漂着する油軌道の典型的なリスクシナリオ
図 2. 6	ルンスキー湾に侵入する油膜軌道
図 2. 7	LUN-A での油流出事故による油軌道を基にしたリスクゾーン
図 2. 8	海面におけるコンデンセートの最小および最大量 (LUN-A)
図 2. 9	アニワ湾のタンカー積載設備からの油流出におけるリスクゾーン (TAU 2002)
図 2. 10	アニワ湾: タンカールートおよびモデリングが行われた地点
図 2. 11	夏のアニワ湾中央でタンカーから発生した原油流出のモデルにおける汚染範囲軌道 (モデルに使用した流出量は 21,000 トン、数字は事故後の経過時間を示す)
図 2. 12	冬のアニワ湾中央でタンカーから発生した原油流出のモデルにおける汚染範囲軌道 冬のアニワ湾内でタンカーから 21,000 トンの油が流出した場合の北海道の海岸線被害の可能性モデル
図 2. 13	(下記表も参照)
表	冬期の海岸における被害の可能性 (%) (上記図 2. 13 参照)
図 2. 14	パイプラインからの流出油分布の例 (凡例は図 2. 15 参照)
図 2. 15	図 2. 14 における地図の凡例
図 2. 16	SEIC の建設時における緊急対応設備
図 2. 17	現時点における初期 (および計画中の) GIS を使用した環境脆弱性地図の対象範囲
図 2. 18	初期段階のアニワ湾における環境脆弱性地図
図 2. 19	北海道北部の海岸線における脆弱性を示した一連の地図の例
図 2. 20	ロシア連邦非常事態調整システムの組織
図 2. 21	SEIC の油流出対応計画の組織 (2004)
図 2. 22	油流出非常事態調整チーム体制の概略
図 2. 23	一般的な氷結期間: ピルトン-アストフ
図 2. 24	一般的な氷結期間: ルンスコエ
図 2. 25	一般的な氷結期間: アニワ湾
図 2. 26	浮氷の大きさの例
図 2. 27	ランドサット衛星画像の例
図 2. 28	設定されたタンカー航路